

島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

2015.SEP



vol.35

平成27年10月9日(金)～11月29日(日)

神在月の出雲で開催

百八十神坐す

古代社会を支えた神祭り

ももやそがみ

いざすも

前掲人物展

鳥根花文館

CONTENTS

- 2・3 (特集) 企画展「百八十神坐す出雲 古代社会を支えた神祭り」
- 4 展覧会通信
- 5 学芸員通信
- 6 れきほく通信
- 7 古代セン通信
- 8 れきほくごよみ/お知らせ

企画展

ももやそがみいま
「百八十神坐す出雲 古代社会を支えた神祭り」

開催期間:平成27年10月9日(金)～11月29日(日) 休館日10月20日(火)、11月17日(火)

開催場所:古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間:9:00～18:00(11月は～17:00)

10月9日(金)は企画展開会式のため特別展示室のみ10:00開場となります。

主 催:鳥根県立古代出雲歴史博物館・鳥根県古代文化センター

◆ プロローグ 神坐す空間

◆ 第1章 神祭りと自然環境

古代の人々にとって、神の存在は自然の営為とともにあった。神は命を守るための大いなる恩恵をもたらすが、一方では自然災害や天候変異、疫病などの災いもまた、神のはたらきだと考えられた。したがって神へ祈ることとは、生存と直結する、生活上不可欠な営みだったのである。

こうした「災」「幸」という表裏一体な神の力に対し、人々はどのようにはたらきかけたのか。自然界に対する様々な祈りのあり方からみていく。

◆ 第2章 古代王権と豪族の神祭り

古代国家が形成されていく過程で、神々をどのように祭るのか、地域ごとに多様な神祭りをどのように統制管理していくのか、という点はきわめて重要な課題であった。このことは、規範づけられた共通の祭祀形態が列島に広く展開していく様子からもみてとることができる。

この章では、神祭りを通じて王権の支配が列島全体に浸透していく過程を、豊富な祭祀具や神への捧げ物からみていく。

◆ 第3章 古代神社の実態

古来、神は人々の日常生活を離れた幽遠な自然界に鎮まっていた。山、岩、水などの自然物に神を見立てた、古代びとの神観念。神を祭るために設けられた清浄なる空間、敷地は、次第に常設の神社として固定化されていくことになる。社殿のない神祭りの空間や自然物と神の関係、さらには常設の神社建築が出現し、定着していく様子を、絵画資料や考古資料をはじめ様々な手がかりからさぐっていく。

◆ 第4章 百八十神が坐す国、出雲

古代国家にとって、出雲は大国主神に象徴される、伝統的な在地神の空間と観念されていた。出雲の神を丁重に祭ることにより、国家の平安が保たれ、秩序が維持されることを願ったのである。大国主神の御子神について『古事記』は「僕が子等百八十神」、『日本書紀』は「其の子凡て^{すべ}一百八十一^ま神有す」とする。ここでの「百八十」は数が多いことを表す神話上の表現にとどまらず、出雲の実社会では大国主神とその眷属神を祭る180の神社の官社登録、整備が進められた。

本章では、国家の神祇政策において出雲が果たした役割、また出雲の地域社会における祭祀の実像にスポットをあてる。

◆ エピローグ 出雲に伝わる祈りの景観



重要文化財 鳥取県谷畑遺跡出土祭祀遺物 倉吉博物館蔵



鳥獸花文鏡 熱田神宮蔵



土馬(美保神社境内出土)美保神社蔵

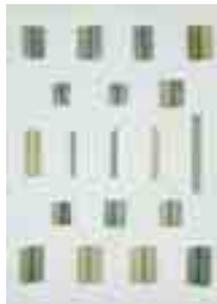
担当学芸員による見どころ紹介

重要文化財 岡山県大飛鳥祭祀遺跡出土品(笠岡市教育委員会蔵)



瀬戸内海の大飛鳥で行われた祭祀にともなう品々。奈良三彩、皇朝銭、六花鏡など優れた資料があり、写真はその一部です。宗像大社沖津宮（沖ノ島）の奉斎品と共通点があり、広域航路に関わる格の高い祭祀がうかがえます。

重要文化財 石上神宮禁足地出土品(石上神宮蔵)



成立期のヤマト王権にとって重要な祭祀の場であった石上神宮。禁足地から出土した品々は、王権による祭祀の圧倒的な質、量を物語ります。玉類、大刀など多数あり、写真の碧玉製管玉はその一部です。



盾持ち人物埴輪(東大阪市神並遺跡出土) 東大阪市教育委員会蔵

清らかな水を引いて神祭りをおこなう祭祀遺跡から出土した埴輪。遺跡は大きな木槽や貼り石貯水池を連ねた大規模なもので、豪族がとりおこなったものとみられています。埴輪はこの施設の最も上流部にあたる湧水地点に立てられていました。盾を持つ人物が表現されており、聖なる水が出でる場所を守ろうとする意図が読み取れます。

企画展連続講座

■関連講座①

平成27年10月11日(日) 13:30~15:00

「古代国家はなぜ神社をつくったのか? ~古代神社の本質にせまる~」

講師: 有富純也 氏 (成蹊大学文学部准教授)

■関連講座②

平成27年10月25日(日) 13:30~15:00

「神々の声・神々への声を聴く ~自然界に神を感じていた古代びと~」

講師: 三宅和朗 氏 (慶應義塾大学文学部教授)

■関連講座③

平成27年11月1日(日) 13:30~15:00

「祭祀遺跡から古代の出雲、杵築大社成立を考える ~神と社の考古学~」

講師: 笹生 衛 氏 (國學院大學神道文化学部教授)

【各講座共通】

各定員: 100名 無料 (要申込) 場所: 古代出雲歴史博物館 講義室

申込方法: 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください。

企画展関連イベント

■「本物の滑石で“子持勾玉”をつくろう」

平成27年10月11日(日) 10:00~15:00

場所: 古代出雲歴史博物館 体験工房 定員20名 参加費: 500円 (要申込)

■「どんぐりクッキーで作ろう! 古代の捧げ物」

平成27年11月15日(日) 10:00~12:00/13:00~15:00

場所: 古代出雲歴史博物館 体験工房 各回定員10名 参加費: 300円 (要申込)

【申込方法】 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください

■学芸員と古代出雲の祭祀ゆかりの地を巡る

「百八十神坐す出雲かけめぐりツアー」

平成27年11月15日(日)

詳しくはお問い合わせください。

企画: ミュージアムいちばた ☎0853-53-8600

旅行実施(申込): 一畑トラベルサービスナイスデーツアーセンター ☎0852-21-0277

特集展

「出雲に米作りが伝わった 弥生時代の始まり」

開催期間：平成27年12月18日(金)～2月14日(日) 休館日1月19日(火)

開催場所：古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間：9:00～17:00

主催：島根県立古代出雲歴史博物館

弥生時代が農耕社会であったことを明らかにした考古学者森本六爾（1903～1936）は、『日本原始農業』（1933）の序文を次の言葉で始めました。

『一粒の^{もみ}、若し地にこぼれ落ちたらば、遂にただ一粒の^{もみ}に終わらないであらう』

およそ2,500年前に出雲に伝わった米作りは、単に米が伝わったという段階にとどまりませんでした。米作りを始めることにより、縄文時代以来の伝統的な文化要素と融合しながら社会が変わっていきました。その特徴は以下の点にまとめることができます。

- ① 籾などを貯める壺形土器など、新しい土器「弥生土器」を作るようになりました。
- ② 田を耕すための鋤や鍬、田下駄などの道具、その道具を作るための磨製石器が現れました。また、青銅器や鉄器など金属器を使うようになりました。これらは弥生時代になってから使われるようになったものです。
- ③ 集落が縄文時代と比べて大きくなりました。また、遺跡の周りを囲む「環壕」が築かれるようになりました。

今回の展示では、米作りが始まったことによって大きな変化があったことを、縄文時代の資料と比較することや遺跡から出土した資料をもとに紹介します。

【展示構成】

プロローグ：倭人と米の出会い

第1章：米作りが伝わったころの出雲

第2章：米作りを伝えた人々

第3章：弥生の暮らしと「祈り」

第4章：陸と海を越えて－弥生時代前期の交流

エピローグ



木製取っ手付き鋤 取っ手の透かしに注目(西川津遺跡)

また、特集展に関連した講座や体験講座を開催します。

■関連講座

平成28年1月31日(日)

【タイトル】「出雲平野の弥生ムラ - 米作りの始まりとムラの発展 - (仮)」

【講師】奥原このみ氏（出雲市文化財課主事）

【内容】縄文・弥生移行期から弥生中期ないし後期にかけての、出雲平野を中心としたムラの展開を紹介します。

平成28年2月6日(土)

【タイトル】「土器から探る！山陰地方における農耕の始まり」

【講師】濱田竜彦氏（鳥取県むきばんだ史跡公園係長）

【内容】「レプリカ法」による土器の種実圧痕調査を紹介するとともに、山陰地方における初期農耕や縄文・弥生移行期の様相を概観します。

※会場は講義室 両日ともに13:30 - 15:00

■関連イベント

平成28年1月23日(土) 13:30 - 16:00 (予定) 弥生土器づくり 体験工房

【講師】田畑直彦氏（山口大学埋蔵文化財資料館助教）

【内容】実際の弥生土器と同じ作り方で、弥生土器を製作します。弥生時代の人々の土器づくりの工夫が実感できるかも？



土笛(西川津遺跡 タテチヨウ遺跡)



壺形土器の形をした木製容器(西川津遺跡)

夏休み子供考古学教室を開催しました。

夏休み中の小学生を対象として、「夏休み子供考古学教室」を開催しました。測量や拓本など考古学の基本技術を学ぶことで歴史への関心を高めるとともに、夏休みの工作まで作ってしまおうという企画です。

8月2日(日)は「古墳の立体模型を作ろう」、9日(日)は「古代文様の色紙を作ろう」をテーマとして行いました。炎天下の中でしたが実際に測量をしたことや、寺院を飾った古代瓦に触れてみたことで、子供たちに考古学の楽しさが伝わったのではないかと思います。古墳の立体模型や古代文様の色紙ができあがった時には、どの子供もとても満足そうでした。

□子ども考古学教室Ⅰ 「古墳の立体模型を作ろう」

古墳の大きさや形を図面に記録するためには、測量を行う必要があります。まずは古代出雲歴史博物館の体験水田を平板測量することで、測量の方法を学びました。実習の次は、出雲市内にある前方後円墳の立体模型作りです。立体模型は、古墳の測量図を基にして、等高線に沿って厚紙を切り、それを重ねて貼り合わせて、最後に絵の具で彩色するというものです。等高線をペンでなぞっては、はさみで厚紙を切り貼りする地道な作業ですが、みんな立体模型を最後まで完成させることができました。



測量機械をのぞきこんで測量中です。



立体模型は、最後に思い思いに色を塗って完成させました。



□子ども考古学教室Ⅱ 「古代の色紙をつくろう」

古代出雲歴史博物館が所蔵する版画家 平塚運一氏の旧蔵資料である古代瓦の拓本をとり、これを色紙に貼って作品にするものです。本物の古代瓦に触れてもらいながら、考古学研究の基礎となる拓本をとる作業を実体験してもらいました。凹凸のある瓦の上に、水に濡らしながら画仙紙を貼り、墨をつけたタンポで紙に文様を写し取る作業は、大人でも難しい作業です。子どもたちは、とても丁寧な、心にゆとりをもって作業したので、見事な拓本をとることに成功しました。



子どもの小さな手は、細かな部分の採拓に適しているようです。出来上がった色紙を並べて、鑑賞会です。



新たな仏像との出会い

～雲南市・観音堂伝来の十一面観音菩薩坐像と毘沙門天立像～

古代出雲歴史博物館 学芸員 濱田恒志

春は出会いの季節といいますが、人との出会い方がさまざまであるように、仏像との出会い方もさまざまです。今回はそんなお話です。

4月、あるきっかけから仏像の調査依頼を頂きました。場所は雲南市大東町金成。かつては近くにお寺があったらしいけれども、現在は観音堂と呼ばれるお堂が残るのみ。そこに安置されている仏像で、地元の方々が大切に護り伝えたとのことでした。

行ってみると、木造の大きく立派な十一面観音像がお出ででした。整ったお顔、量感ある体つき、内刳り（仏像の内部を刳り抜くこと）をせず、頭部や体幹部をすべて一材で彫成しようとする構造などから、平安時代前期の作と判断できました。

両足は室町時代、台座は江戸時代に補われたもので、それぞれの場所に、その旨の墨書銘がありました。平安時代に造られて以来、現在に至るまで、修理されつつ連綿と大切にされていたこともわかりました。

十一面観音像のそばには、木造の毘沙門天像も安置されていました。少し遅れた平安時代後期の作で、侍者として加えられた可能性があります。

貴重な仏像だということで関係の方々が協議した結果、ふたつの仏像は、このたび当館へご寄託頂きました。どのようなきっかけで造られたのか、なぜこの地に伝わったのか、など、謎はまだ多いです。引き続き調査研究を進め、いつか展示の機会を得て、改めて皆様にご紹介したいと考えています。



雲南市・観音堂伝来十一面観音菩薩坐像

ご案内

特別展

遷宮「受け継ぐところとかたち・増浦行仁「神の宮」」

開催期間：平成28年3月25日(金)～5月18日(水) 休館日：4月19日(火)

開催場所：古代出雲歴史博物館 特別展示室

出雲大社本殿（国宝）などの建造物は人々の信仰の象徴であるとともに、鳥根の歴史・文化を物語る貴重な文化財です。これらは定期的に修理が施されて現在に受け継がれてきており、また、災害等からも守りつつ、後世に受け継いでいかなければならないものです。

そこで平成28年3月に出雲大社の『平成の大遷宮』が終了することを機に、あらためて出雲大社の遷宮の歴史を紹介するとともに、『平成の大遷宮』の保存修理の内容、保存修理によって明らかになった文化財建造物としての出雲大社の特徴を概観します。また、今回の出雲大社の遷宮をきっかけとして関心が高まった文化財としての建造物の保存修理について、県内の主な事例を紹介します。

さらに、仮殿遷座祭、本殿遷座祭など出雲大社平成の大遷宮の撮影を行ってきた写真家増浦行仁氏の写真を通して、遷宮に関わる人々の心情に触れます。



■プロローグ 遷宮とは

■第1部 出雲大社の遷宮

■第2部 受け継ぐかたち - 遷宮・落慶と保存修理 -

■第3部 受け継ぐところ - 増浦行仁「神の宮」 -

出雲風土記シンポジウム 「古墳時代の玉類」第2回研究集会の開催

①出雲国風土記シンポジウム

このシンポジウムは、首都圏で『出雲国風土記』をより深く知ってもらうために昨年度から東京で実施しており、今年は7月26日に東京有楽町のよみうりホールにて、「『出雲国風土記』と『古事記』『日本書紀』」と題して、8世紀の前半に成立したこの三書の古典をとおして、出雲神話の深層について討論しました。

シンポジウムの基調講演は『口語訳 古事記』などで著名な立正大学の三浦佑之先生で、『古事記』が出雲神話を多く取り上げていること、また『古事記』に見えるカムムスヒ神も出雲と深い関係にある神であることを話していただきました。つづいて駒澤大学の瀧音能之先生に『出雲国風土記』に記された出雲について、東洋大学の森公章先生に『日本書紀』にみえる出雲について、県文化財課丹羽野課長から風土記時代の出雲についてそれぞれ報告があった後、討論に移りました。討論では、『出雲国風土記』と『古事記』『日本書紀』の神話の比較、それぞれの書物はどの時代の出雲を反映しているのか、神話を生み出した背景になる古代出雲世界はどのようなものであったのかが討議され、日本海の交通の中心であった出雲は、古代国家の中心であるヤマトに対応する地方の代表として、重要な位置を占めていたのではないかとの意見も出されました。

このシンポジウムは、今後県内ケーブルテレビ各社にて放送し、今年度末刊行の『しまねの古代文化』にも掲載する予定です。



出雲国風土記シンポジウム

②古代歴史文化協議会 14県共同調査研究事業「古墳時代の玉類」第2回研究集会

古代歴史文化にゆかりの深い鳥根県、奈良県、福岡県など14県が連携して、平成26年度から「古墳時代の玉類」をテーマとして共同調査研究を行っています。

今回は第2回目となる研究集会を平成27年7月30日～8月1日にかけて松江市内で開催し、各県の研究員約40名が参加しました。

研究集会では、各県で実施している古墳時代玉類の集成作業の進捗状況や特徴的な事象、最新のトピックスなどについて発表がありました。また、今回初めて分科会を開催し、「玉類生産遺跡の研究」、「玉類の流通と消費の研究」、「東アジア世界における日本の玉類」の3つの班に分かれて今後の調査研究の進め方等について打合せを行いました。

この共同調査研究は、個々の地域的な研究だけでは解りにくい日本古代史の流れを解明することを目的としており、成果報告書の刊行や展覧会の開催も予定しています。

また、今年11月15日には東京で中間研究発表会を行う予定です。

(※14県 = 埼玉県、石川県、福井県、三重県、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、福岡県、佐賀県、宮崎県)



古墳時代の玉類 第2回研究集会

イベントのお知らせ

◆秋のイベント情報

■9月20日(日) (しまね家庭の日)

「カルメ焼き体験」

10:00~12:00 / 13:00~15:00

つくって楽しい、食べて美味しい「あま〜い」カルメ焼きの体験です。カルメ(カルメラ)の語源はポルトガル語の「甘いもの」によります。

参加費：300円 随時受付

■9月27日(日)

れきはく「観月会」

18:30~20:30

十五夜の“まーい”月を愛でながら、月見団子と抹茶を堪能してください。イベント「神楽とフラのコラボレーションの夕べ」も開催しますのでぜひご参加ください。

参加費：無料

■10月11日(日)

れきはく体験楽「秋まつり」

10:00~15:00

風土記の庭クイズラリー、企画展関連イベント「子持勾玉づくり」・関連講座(いずれも事前申し込み)、銅鐸発見記念日イベント「ロウ鐸鑄造実験、出雲農林高校の太鼓パフォーマンスや移動動物園など爽やかな秋の休日を歴博で過ごしてみませんか。

■10月25日(日)

体験水田稲刈り体験

9:30~11:30 事前申し込み

6月に田植えを終え、いよいよ古代米の収穫です。

石包丁を使って古代の収穫体験をしてみませんか。

各イベント詳細はHP、チラシ、またはお問い合わせください。



お知らせ

出雲歴博からのお知らせ

ちょっと気が早いですけど・・・

来年の正月3が日も今年と同様に無料で展示をご覧いただけます。

特集展「出雲に米作りが伝わった 弥生時代の始まり」も開催中です。さらに毎年恒例の「れきはく新年まつり」を開催します。

杵と臼を使っての「祝い餅つき」や、大社町伝統の「番内」衣装体験、「正月あそび」と楽しいイベントを3日間開催します。

初詣の際は出雲歴博にお立ち寄りください。



発行/平成27年9月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん